

釧路湿原自然再生協議会

第1回旧川復元小委員会

議事要旨

■ 小委員長選出について

協議会設置要綱第10条第3項に基づき、小委員会委員の互選により神田房行委員（北海道教育大学釧路校教授）が旧川復元小委員会の委員長に選出され、承認された。

■ 全体構想と小委員会の関わりについて

事務局より全体構想と小委員会の関わりについて説明が行われた。

(委員)

- 小委員会は、現在、自然再生事業を行うことを考えている12施策の枠内で検討するような会であり、それを基に全体構想をつくるという考え方で進めてよいのか。また、釧路湿原内だけではなく上流域も含めた流域全体で考えていかなければならない。

(事務局)

- 湿原の再生については、対象エリアを流域全体ととらえており、流域対策が重要との認識に立って全体構想をつくりあげていく。
- 全体構想は、協議会で合意ができるまで議論をしてまとめる。協議会でまとめていく全体構想が協議会の出発点になる。

(委員)

- 既往検討委員会で議論し積み上げてきた実績を十分踏まえ、実施計画案の協議をするのが小委員会の一番大きな目的である。
- 全体構想は5年に1回見直すということになっており、さらに必要なことがあれば、新たに盛り込んでいく。

(委員)

- 協議会は、全体構想を練り、検討するような雰囲気にはなっていない。小委員会から上がってきたものをまとめるには全体構想をつくる体制が脆弱である。現在の12の再生事業をただ束ねただけの全体構想になりかねないと非常に危惧している。特に、旧川復元は釧路湿原や河川区域の中だけではなく最終的に全体として目指す姿の話をしなければならず、そのことを議論する場所がない。

(事務局)

- 協議会の運営として意見が出やすくする工夫を考えていく。全体構想を合意形成するために議論していかなければならない。それに向けて小委員会の場での意見交換も生かしていけるような体制を考えていく。

(委員)

- 全体構想で具体的に決め過ぎるとそれに縛られて動けなくなる可能性もあり得る。全体構想の個人の考え方にも相当温度差があり、今の協議会の形で十分な議論を行うことは難しい。例えば小委員会の代表が集まって、全体の構想を見直す等、違う形で各小委員会のすり合わせ的な会を持つ必要がある。
- 当小委員会は、河川環境の保全、特に河川の生態系の保全をベースに考えていけばよい。他の小委員会と重複する問題については他の委員会と合同で考えていけばよい。

(委員)

- 既往検討委員会で、全体構想らしきものが生まれてきたと思う。釧路湿原が第28番目の国立公園になった当時から湿原環境保全のために大変な努力をされてきたトラストサールンが検討委員会の中に入っていなかったことは問題がある。

(委員長)

- 既往検討委員会を前提にしてこの協議会が構成されているわけではない。そこで協議されていた調査、研究を大事にしたい。再生事業計画そのものは、これから始まるのでそれに入っていなかったという議論はしない方がよい。協議会で意見を言うのは難しいのである程度小さな委員会でないといけないということもあって、当小委員会で議論し、全体構想に反映させていきたい。どこを範囲に含めるということや何のために蛇行化させるのかというのは、上流域との関係が出てくるので、最初から上流域の問題は入っていると思う。

■ これまでの調査・検討経緯について

事務局よりこれまでの調査・検討経緯について説明が行われた。

(委員)

- 直線化した河川は、土砂が堆積して浅くなっている。旧川復元すると土砂は堆積しないのか。また、今までと同じように流れてきた土砂はどこへ流れて行くのかという疑問がある。釧路湿原の後背地は火山灰地であり、いやが応でも土砂は流れてくる。問題は、どこに堆積して、どこで取り除いて、または海まで持っていかうかというのが、土砂の原理であり、直線化したのを蛇行化して、土砂流入の防止ということになるのか。

(事務局)

- 土砂流入防止の仕組みとして考えられるのは、過去に直線化して、勾配が急になっているので、流速が速くなって土砂が運ばれる力が強くなったというのが1つ考えられ、それを戻すことによってその力を弱めるということが考えられる。また、復元することによって氾濫頻度が増えると、川が溢れやすくなり、溢れやすくすることによって、洪水の中に含まれる細粒土砂が下流まで流れて氾濫する前に、当箇所土砂を落として、湿原の心臓部に行くのを防ぐという効果があると考えている。

(委員)

- 土砂についてはボリュームだけで議論するのではなく、砂粒の大きさが関係する。それによって完全に浮いて流れてくるものと、河床を転がって流れてくるものという区別をしないとしない。その川幅に対しての適正な流れがあり、そこでは浮遊土砂は下流に運搬され、掃流土砂は順次上から供給され、下流へ流れていくということで、ある程度の平衡状態は保たれているということである。河床の形をつくる土砂ではなく、濁りの成分で浮いているものをトラップするという意味である。

(委員)

- 上流から流れてくる土砂は、浮遊砂以上に砂分が多いので、蛇行によって、洪水ごとに溢れて、周りの湿地に入っていくのかということが疑問である。絶対量は同じなので、ここにたまらなくても、下流の蛇行したところで溢れることにならないのか。釧路は幸いに雨は少なく洪水も少ない方であるが、上流域では、底質が砂礫の河川だと、水が出るごとに底を削られて、どこかに流れていくというような状態を繰り返しながら、下流に流されてきている。砂がオーバーフローするというのが非常に気にかかっている。

(委員)

- ある流量に対して、当然濃い濃度で出てくるという形になる。当然、掃流砂が蛇行帯で自然堤防をつくって、小高い面ができて、その裏側に後背湿地ができるのが普通であり、基本的に川の周りは砂がたまる。問題は、久著呂川で起こっているように、異常な形でたまっているかどうかということである。ここで蛇行することによって、急激に問題が起こるということであるならば、下流側のリファレンスサイトにも問題が起こっているはずである。

(委員)

- 直線化によって湿原の中に細かい砂、シルト、泥などが流れ込んでいるのではないかとすることが想像できる。蛇行化によって、洪水の場合は別として、平常の場合、浸食や

堆積する場所もあり、湿原の中に流入する砂泥等の量が少なくなるのではないかと思う。
(委員)

- 過去6回にわたる小委員会での議論の積み重ねは、今後の事業展開に向けての大きな蓄積になっていると感じた。旧川の復元に際して問題となっていた絶滅危惧生物が旧川の中にいるということ、上流の農地に水位上昇の影響が及ぶという2点は、再生区間の再設定と右岸側に積まれた浚渫土砂の除去によりとりあえずクリアできると考えられる。そこで、茅沼地区での事業は実施とモニタリング調査に移行させ、本小委員会での議論は支川への展開についての的を絞っていったらどうか。また、その際に農業セクションが何らかの形で関わっていけるような体制をとってほしい。

(事務局)

- 国土交通省北海道開発局釧路開発建設部として農業セクションを含めた形で考えている。

(委員)

- 事務局としてではなく、委員席に座るような形で考えた方がよい。

(委員長)

- 農業の担当者が出てくるような形を今後検討してもらいたい。

(委員)

- 今後の課題として、蛇行の部分だけではなく、もう少し上流・下流を含めた形で考えた方がよい。この蛇行だけの狭いところだけを見るのではなく、支流との合流、もしくは農家も含めて、もう一度考えると、流量を下流側で増やした方が、洪水安全対策的にも、農家を守る意味からもよいし、オソベツ川そのものの蛇行流路も復元できるならばメリットがあると思う。

(委員)

- 茅沼地区の掘削試験工事は、事前に協議会や小委員会の中で協議した記憶もなく、フライング的な実験という印象がある。今後、協議会や小委員会で事前に協議されない実験が行われる可能性があるのかを確認したい。

(委員)

- 当時、検討委員会である程度議論してきたことについて、全体構想の中に盛り込んでいかなければならないと考えていた。実際当地区が、旧川の部分の土質条件や施工条件が分からないと施工計画は立てようがないと考え、試験的な掘削調査を行った。今後は、実施計画にかかわるものについて、協議会で協議しないで実施することにはならないと考えている。

■ 今後の調査・検討方針について

事務局より今後の調査・検討方針について説明が行われた。

(委員)

- 釧路川水系河川整備基本方針の検討と当協議会の関係はどうなっているのか。釧路川全体のことを議論する場合、別々な検討にならないのではないか。

(事務局)

- 釧路開発建設部のホームページに経過を載せており、チラシでも広報している。釧路川の川づくりと考えたときに、釧路川は下流に湿原という大きなものがあって、その保全というものが密接にかかわってくるので、検討状況について協議会へも報告し、連携を図っていきたい。

(委員)

- 全体構想に、小委員会の意見を反映させるため、6つの委員会の委員長とも協議しながら必要に応じた小委員会の開催が必要である。

(委員)

- 目標達成のための施策にある環境教育の推進は、今後、自然再生を進めていく上で、非常に大きなウエートを占めてくる。特に地域住民の理解を深めるためには、小・中・高、大学含めての総合的な学習が重要で、それにかかわる資料を提供する機会を多くする必

要がある。

(委員)

- 茅沼地区の現況等の詳細検討資料を小委員会で提示してもらいたい。

(委員)

- 全体構想はみんなでアイデアを出していかないと、議論も活性化しない。色々と役割分担をしながら行っていかなければならないので、積極的な議論になる方向で参加していただきたい。